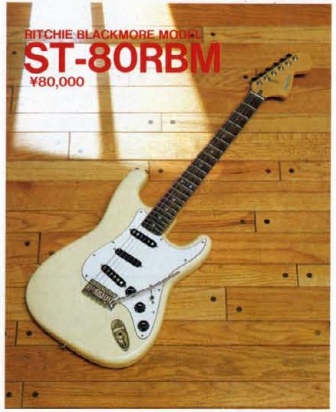
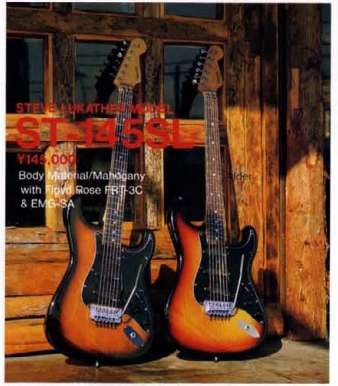
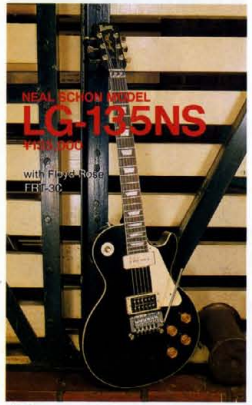
ガラスののヒーロー"マイケル・シェンカー"。独創のギターセンスと変り者という神秘性があいまっている、彼のトレードマークは、ダイアンに白と黒の2トーンに塗り分けられたフライングV だ。そのマイケル・シェンカーのモデルを忠実キョにコピーしたのが、このFV-85MSだ。



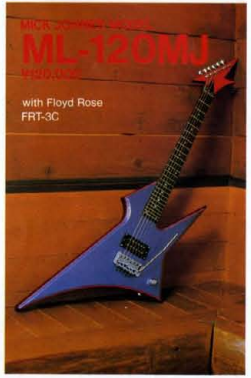
リッチーのギターワークの中心となっているストラトキャスター。一般のストラトとは違い、かなりの改造が施されている。フレットとフレットの間も大くり取る、太いボールピースのハイパワー指向のPU、独自のマイクレイアウトなど…。これらすべてがST-80RBMで再現された。リッチーのリッチなプレイは、こいつでキマリだ！



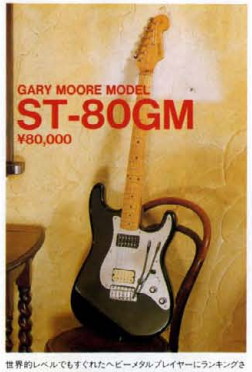
ストラトスタイルのギターでありながら、まったく別のNEWタイプ・ギターといってもよいほどのサウンドを持つのがこのST-145SL。外観的には、特にきわだった点はみあたらないが、これがまた彼のギターらしいところ。しかし、内容は強力！今一番進んでいるフロイトローズのトレモロ・ユニット、そしてPUはこれまたセンセーショナルな話題を呼んでいるEMGとさているから、いうことナシ！その他、パーツ、ボディ、ネックもセレクトされたルカサータイプを使用した、完璧レプリカモデルなのだ。



愛用ギターがいろいろとある"ニール・ショーン"だけど、その中でも特にきわだった特長を見せているのが、このLG-135NSのマザーとなっているギブソン・プロデラックスのフロイトローズ付だ。FRT-3のトレモロユニットの効きは強烈のひと言だ。

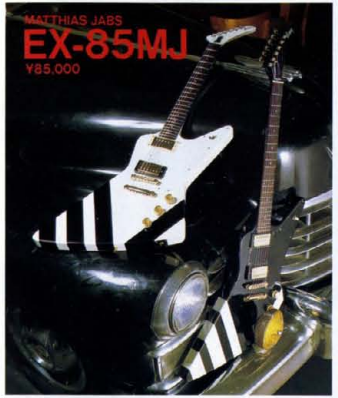


アクのないギタープレイで定評のあるフォリナーのリーダー的存在のミック・ジョーンズ。彼の独得なアーミング、的確なリフをサポートしているのが、ML-120のマザーとなっているミック・ジョーンズ特注MODEL。直線を基本とした独自なアウトラインを持つこのギターには、Floyd Rose FRT-3Cを特別マウント。ハードなアーミングとサスティーンの効いたヘビーサウンドがこのギターの真髄だ。

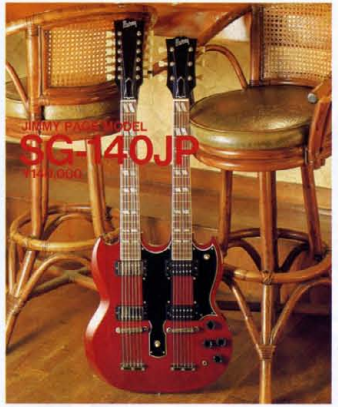


世界的レベルでもすぐれたヘビーメタルプレイヤーにランキングされているゲーリー・ムーア。そのスピード感あふれるプレイは、ヘビーメタルの真髄だ。ゲーリー・ムーアの好演をサポートするのが、ST-80GMのマザーとなっているストラトスタイルのメイプル21Fブラックフィニッシュモデルだ。フロント、リアピックアップともオープンタイプのハムバッキングで、プラス製クロームメッキ仕上げのピックガードにマウントしてある。パーツひとつをとってもヘビーメタル指向のハードなギターだ。

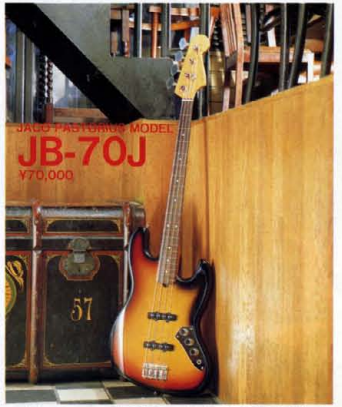
ボディ、ネックともバドック着色したルカサー愛用のコンポーネントギターを忠実に再現したのが、このST-90SLだ。ピックガードは、コンポなどでは高級プラス製でトレモロも同じくプラス、ネックに、他のパーツもプラスおよびゴールドの仕様となっている。PUはハイパワーとノーマルが切換えられるタップドタイプを採用し、ミニSWでサウンドバリエーションは多彩。アルダーボディ、22Fネックとハイクオリティなギターに仕上がっている。



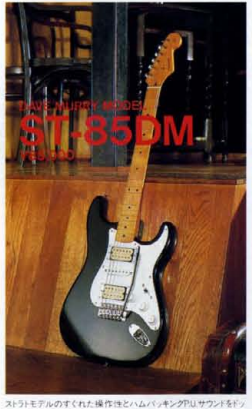
いつもコキゲンでカッコイイ、スコーピオンズのリードギタリスト、"マティヤス・ヤブス"。そのマティヤスのメインギターであるエクスプローラーが、完全に再現されたのだ。ホワイトのシャープなボディ・シェイプに、ブラックのストライプが映える、シャーラーM6タイプ・ヘッド、ブラックのホワイトのエスカッションまでパーフェクトに再現。シンプル・イズ・ベスト、Heavy Metalの真髄だ。



ジミー・ペイジがステージでよく愛用しているSGダブルネックギターと同じスペックをもつSG-140JP。テールピースを使方にレイアウト。素早いコントロールができるようスピードノブに変更した点もまったく同じだ。ダブルネックは欲しかったけど、操作性がイマイチと思っていたプレイヤーにピピトも、おススメしたいのであります。



いわずと知れた"ジャコ・パストリアス"。彼はS-bのJAZZ BASSを所有しているが、一番よく使うのが1963年頃のもの。フェルナンデスでは、63年のと同仕様のRJBをマザーに、彼のフレットレスベースを完全コピーしたのだ。さあ、ベーシスト諸君、こいつを使ってジャコを目指せ！



ストラトモデルのすぐれた操作性とハムバッキングPUサウンドをドッキング！ストラトスタイルでのもっともベーシックな改造例だろう。トレモロ、エスカションにメタルパーツ、PUはディマジオスーパーディストーションを使用し、ディブ・マレーのものとまったく同じの中身の濃い構成だ。

シンプルなIボリューム、Iトーン、ハイパワー・サウンドでギンギンにせまるタップドPUをマウントしているのがJEFF BECK MODEL、BECKのストラトは、1959～63年頃のもの、そこでフェルナンデスではRST-80'59MODELをマザーにして、完ペキに同じ改造変更したのだ。

ポールおじさんのベースは、リッケンの4000番でも、400Ⅰ番でもない、固モデルをミックスしたようなもの。それをRB-80PMで再現したのだからスゴイ！ボディのバインディングは無い、ポジションマークはドットと4000番スタイル。しかし、オールドタイプの2PUで400Ⅰ番スタイルと、なにからなにまでボールのリッケンそのものなのだ。

矢沢永吉氏がキャロル時代にフェルナンデスのスタッフと共同開発したのが、このYB-70。このモデルの基本となっているのはジャズベースで、PU位置は矢沢氏の好みにレイアウトされている。メイプルボディー、ネックもメイプルのスペシャルオーダー仕様なのだ。